



学校だより

6月号

令和8年5月29日

相手意識

副校長 田中 孝之

新しい学年が始まり、早くも二か月がたとうとしています。校庭の植物や生き物は季節の移ろいととも姿を変えています。子どもたちもこの二か月で大きく成長した姿を見せています。教室や校庭で笑顔が広がる様子を見るたびに、学校は人と人とのつながりの中で成り立っていることをあらためて実感します。今回スポットを当てたいのは中丸小の子どもたちが見せてくれる人と人とのつながりです。

中丸小学校の子どもたちは授業中によく発言をします。その際には自分の考えがどうしたら相手に伝わるのかを考えている姿が見られます。そんな友達の意見にしっかりと耳を傾けて聞こうとする子どもたち。体力テストでは、上級生がペア学年の子たちをリードして行動していました。挙げれば枚挙に暇がありませんが、自分のことだけではない、目の前の相手を意識する「相手意識」が、中丸小の子どもたちには備わっています。相手意識とは、「自分の周りにいる人の気持ちや立場に目を向けること」「相手の立場に立って行動しようとする心」です。

日本の昔話に「かさじぞう」というお話があります。雪の降る年の暮れ、貧しいおじいさんが売れ残った笠を、雪の中で寒そうにしているお地蔵さんにそっとかぶせてあげました。自分たちの生活も楽ではない中で、おじいさんとおばあさんは「かわいそうだ」と相手のことを思う気持ちを優先したのです。その夜、お地蔵さんたちが恩返しに訪れ、たくさんの贈り物を届けてくれました。

このお話が教えてくれるのは、「人に親切にすることは、特別なことではなく、相手を思う気持ちから自然に生まれるものだ」ということです。また、その行いはいつか自分にも温かい形で返ってくるということでもあります。

友だちが困っているときに声をかけること、順番を守ること、ありがとうやごめんなさいをきちんと伝えることなど、一つひとつは小さな行動かもしれませんが、その積み重ねが、安心して過ごせる学校をつくります。

中丸小学校の子どもたちはこうした「相手意識」をもつことができています。これは本当に素晴らしいことです。これからも子どもたち一人ひとりが他者の存在を大切に、温かい関係を築くことのできる学校を、保護者・地域の皆様とともに育んでいきたいと思っております。今後ともご理解とご協力をお願いいたします。